松山大学
図書館報
NIKI TA TSU
熟田津
No.47

出会いと笑顔と図書館と

高江啓史さんよりメッセージ

今、大学生活を振り返ると、先行きの見えない将来に不安を覚えない日はありませんでしたが、今春より公務の任に就くことができたのは、「人を笑顔にしたい」という強い思いを心に持っていたからだと思います。『念ずれば花開く（いつも心に思っていれば、願い事もいつか成就の花を咲かす）「坂村真民さんの詩」』を実感しました。

皆さんも、不安なときこそ出会いを大切にしてください。フィールドを学内か学外に定める必要はありません。大学では、図書館の本を通して人と出会い、共感や反発、ときにはその人の中に深く入り込みながら、その人と語り合ってみることも大いに役立ちました。友人や指導教授、フォイエルバッハやマルクスとの出会い、出会いは無限です。皆さんも４年間の学生生活の中で大いに悩み、「確信」と「覚悟」を深めていってください。

（2011年３月法学部法学科卒　法務省勤務）

Contents

● 図書館の舞台裏潜入 …… P2
● 図書館 NEWS …… P3
● 第10回松山大学図書館書評賞 …… P4～7
● C3からのおすすめ本紹介コーナー・C3選書コーナー 2010年度貸出ランキング …… P8

図書館の舞台裏潜入

学生ブックハンティング密着取材！

【実施概要】
日時：2010年12月13日(月)
場所：ジュンク堂書店松山店
参加人数：C３スタッフ・10名
引率職員・２名

図書館学生アドバイザースタッフ『C３』によりブックハンティングで選書された図書は、メンバーの手によって本のカバーや紹介ＰＯＰと共に、「C３選書コーナー」へ配架されます。それらの本は、学生のニーズに応えたものとなっていることから、人気の高いコーナーになっています。今回は、左記の日程で実施した学生ブックハンティングの様子をご紹介します。

『C３』のメンバーは、選定の際の注意点に配慮し、１時間という時間制約のあるなかで、他の学生にも読んで欲しいものや学習に役立ちそうなもの等、それぞれの目的に沿ったものをピックアップしていました。ブラウジングによる選書だけでなく、店内の検索器を利用したり、他のメンバーと内容を相談しながら意欲的に選書を行っていました。参加したメンバーからは、「店内の推薦ＰＯＰがとても分かりやすく、図書館で掲示を行う際の参考になった」「並べられた本から読者のニーズや、世の中で何が話題になっているのかを感じ、刺激を受けた」等の感想が寄せられ、ブックハンティングによって成長の機会を得たようです。

メンバーは、活動を通して、今どのような本が読まれているのかを知り、ニーズに合わせた本を選ぶことが市場調査にもなり、企画力や調整力等を養い、コミュニケーションスキルを高めています。皆さんも、『C３』の活動に参加してブックハンティングをしてみませんか？
※詳細は図書館サービスカウンターまでお問い合わせください。

図書館情報検索ガイダンス

図書館資料の探し方を重点的に実習し、レポート等の作成に有効的な内容でガイダンスを実施しています。詳細は図書館サービスカウンターまでお問い合わせください。
※各種データベースの使い方についてもアナウンスしています！

図書館利用のススメ

特にオススメの松山大学図書館の各スポット情報をご紹介します。

☆視聴覚ブース☆

学習用資料はもちろん近年話題の映画やドラマのＤＶＤ等、娯楽性のある資料も豊富に揃っています。授業の空コマ時の時間活用等にもぜひご利用ください。

☆談話室☆

おしゃれな雰囲気が魅力の談話室では、飲食が可能です。「勉強疲れに一息入れたい」「お昼休みに友人と談笑したい」「コーヒーを飲みながら読書をしたい」等、さまざまな要望にお応えします。

☆ 1,2F 閲覧席☆

無線ＬＡＮ対応の環境の整備により、各自インターネットを利用した学習によってレポートの作成が可能です。
※学内関係者専用

☆新聞コーナー☆

国内外の社会動向や時事問題について情報を得ることができ、論文の執筆や就職活動等に役立てることができます。
※約60種類の新聞が揃っています！

図書館 NEWs

2010 年度、図書館では、学生や教員の協力のもと、利用者の皆さんの役立つ情報を取り上げ、次のようなさまざまなイベントを企画・運営しました。

2010 年度のイベント（抜粋）

書評の書き方教室－書評ってなあに？－

「書評」とは、読書感想文とは違い、書物の内容を適切に紹介・批評することです。文章を正確に理解し、それについて十分に思考を働かせ、論理的かつ優れた文章を書く能力を養うために“書評を書く”ことは、きわめて有効です。「書評を書いたことがない」という方に向けて、「書評の書き方教室」を毎年開催し、好評を得ています。

※今年度も５月から６月にかけて開催予定ですので、是非参加してください。

図書館セミナー

さまざまなテーマで専門講師をお招きして、「図書館セミナー」を開催しました。

◎「自分にも人にも優しいコミュニケーション」

梶原　剛 氏（2010 年 11 月 16 日開催）

【内容紹介】

コミュニケーションのとり方についてワークを取り入れながら、“自分を知る、他者を知る、たまには道草してみる”など、少し立ち止まることによって自分のあり方、人へのコミュニケーションのあり方を学びました。

インターネット時代で、「コミュニケーションをとるのは苦手・・・」という学生にとっては、コミュニケーションのあり方を再認識できる機会となりました。

◎「やってみよう！ブックトーク」

愛媛県立図書館　東　智子 氏（2010 年 12 月 8 日開催）

【内容紹介】

『ブックトーク』（テーマに沿って本を手に取りたくなるように紹介する）について説明があった後、テーマに「仕事」を取り上げ、それに関連付けながら５冊の本が紹介されました。参加した学生からは、「話の続きが気になる。読んでみたくなった」、「本の紹介の流れが自然で、どのように本を選んでいるのか知りたくなった」などの感想が寄せられ、ブックトークの面白さを実感し、有意義な時間となりました。

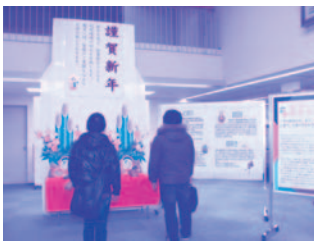
図書館企画展

複数の新聞から話題となっている同じニュースを取り上げ、記事を比較することにより、各紙の特徴や読み方のポイント・コツ等を具体的に解説した「新聞記事比較展示」。また、折に触れ、伝承文化の由来などを知ってもらうことを目的に、正月・クリスマスなどの季節行事を取り上げ、企画展示を行いました。

◎坂の上の雲展示
◎新聞記事比較展示
◎クリスマス展示
◎新年の展示
　など

「新聞を読むポイント！」

クリスマスの飾りつけの様子



新年の展示

第10回　松山大学図書館書評賞

図書館では、学生の読書活動の促進、教育活動の資質向上などを目的に図書館書評賞を設け、優秀な書評を「松山大学図書館書評賞」として表彰し、広く学内外に紹介しています。

書評って何だろう

審査委員長　増野　　仁

我が書評賞は新たな 10 年に突入しました。これからも、さらに発展してゆくよう心から願っています。

ところで、書評っていったい何でしょう。いろんな考えがあるでしょうが、私の考えでは、“作品（＝書物）”を育ててゆく営みなのです。作品は産み落とされたあと、さまざまな読者を経てゆく過程で、徐々に、あるいは、急速に成長を遂げることがよく有ります。それは、読者が勝手に作り変えてしまうのではありません。読者が作品に潜んでいるものを掘り起こしつつ、その作品からの発信をし続けるのです。それによって、偉大な作品がさらに偉大なものになったりします。作者は作品に対して“絶対的”な親権を主張し続けることはできません。なぜならば、子供同様、親から自立して生きてゆかなければならないからです。偉大な作品だからといって、祭り上げられただけでは、もう生きているとは言えないでしょう。

読書を通して、作品を客観的、主体的に受け止め、書評という営みを通してその作品を改めて発信し、その作品の成長を促すということに楽しみを見出すととても面白いです。ぜひやってみてください。

受賞者および受賞作品

○最優秀書評賞

夏井　さとみ
（人文学部社会学科３年）

『死にたくないが、生きたくもない。』

〔請求記号：367.7/Ko〕
著者：小浜　逸郎
出版年：2006

「死にたくないが、生きたくもない。」

あなたは、この言葉を聞いてどう思うだろうか。もし 20 代である私が言ったならば、「何を自堕落なことを言っているのだ」と私を叱責するかもしれない。けれど、これを言ったのが 70、80 代の高齢者だったとしたらどうだろう。私は、高齢者からこの言葉を聞いても、何ら違和感を覚えないし、自然な成り行きだとさえ思う。

しかし、高齢者であったとしても叱責するのが現在の社会である。叱責するとは少し行き過ぎた表現でもあるが、社会は先程のような言葉を聞けば正そうとするのではないか。現在、社会では「生涯現役」や「新老人」などの言葉が行き来しており、高齢者に活力ある生き方が提唱されるようになった。実際に、アンチエイジング熱は高まっており、精神的にも肉体的にも若返りたいと思っている高齢者は少なくない。

このような風潮にありながら、本書の著者は「生涯現役」や「長生きは素晴らしい」という思想に違和感を唱えている。「元気老人」や「生涯現役」の存在は、高齢者の中でも一握りの特別な存在であり、目指した所で誰もがなり得るとは限らないのだ。だらだらと老い、だんだんと死んでいく。この在り方をそのまま認めることで、気づけば長生きしてしまっているというのがあくまで現実である。

「老い」がはっきりと訪れてくる年齢帯は平均的に見てだいたい 50 代後半から 60 歳あたりに集中している。著者も含め、いわゆる団塊の世代がもろに「老い」を感じていることになる。しかし老いを感じながらも、約７割の団塊の世代が「働く意欲」を持っている。これは、日本の国民性である勤勉さや、世間からの評価を重要視する日本の特質が色濃く反映している。

また、「老い」の過程に男女によるセクシュアリティの違いが顕在化していることも忘れてはならない。従来から、男性は肉体的な欲求や交わりを重んじる傾向が強く、女性は心のつながりを求める傾向が強いとされている。この傾向は、老いてもなお男女ともに継続しており、人間はいくつになっても男と女なのである。

著者は「老い」に関して、無理に抗するのではなく、無理のない範囲で自分のできることをする程度が望ましいと思っている。長生きをするために度を越えた努力をするよりも、長生きしてしまったときにどう振る舞うかが大事なのだ。「死にたくないが、生きたくもない。」聞こえはあまり良くないかもしれないが、これぐらいの気持ちの持ちようが丁度よいのではないだろうか。無理して元気に生きることはせず、「老い」という現実に身を任せる。これはとても自然な生き方であり、死に方であるように思える。

○優秀書評賞

松下　由佳
（人文学部社会学科４年）

**『家族ペット
やすらぐ相手は、
あなただけ』**

〔請求記号：645.6/Ya〕
著者：山田　昌弘
出版年：2004

家族について聞かれたら、あなたは誰のことを考えるだろうか。親子や兄弟のように血縁関係にある人たちか。あるいは結婚などで一緒に暮らしている人たちだろうか。では、ペットはどうだろう。私は迷いなく家族だと答える。このように、人間だけでなくペットを家族の一員として考える人も、現在の日本では決して珍しくない。

近年、ペットブームは加熱するばかりである。しかし、これだけペットがブームと言われていても、ペットの数そのものに大きな変化はない。一方で、ペットの気持ちを気にする飼い主が増えている。ペットにも喜んでもらいたい、満足してもらいたいといった気持ちが高まり、そのニーズに応える形で、まさに「ゆりかごから墓場まで」の人間同様のサービスを提供するペット産業が次々登場し人気を集めている。

そんな飼い主たちがペットに求めるものは、「かけがえのなさ」と「自分らしさ」である。現代では、人間同士で自分らしくふるまえる長期的な信頼関係を築くのが難しくなってきた。そこで、自分から裏切ったり別れを切り出したりしないペットが、家族以上に家族らしい存在として浮かび上がってきたのだ。家族同様に愛される「家族ペット」の誕生である。

この「家族ペット」は、「理想の家族」の投影先となっているのではないかと、著者は指摘する。ペットは、どのような家庭の中でもその家族なりのポジションにきちんとはまる。著者の行ったインタビューの中でも、ペットはあるときは理想の愛人、あるときは理想の恋人、理想の配偶者、理想の子ども、理想の要介護の親など、飼い主の理想の家族として登場していた。家族の代わりというよりも、ペット自身が理想の家族の役割を担うのである。

ペットを可愛がる状況は、パラサイト・シングルが生まれる状況と似ているという。手間をかけ、お金をかけて「わが子に尽くしている」と嬉々として語るパラサイト・シングルの親と、この現状が重なるのだ。同じようにお金をかけて絆を確認するのなら、最初から自立しないことを前提としているペットにかけたほうがいいと著者は言う。その方が結果的に自立した大人が増えるというのだ。人間が自立すれば社会の支え手に回り、社会が再生産される。「家族ペット」が社会を救う手立てとなるのか。動物好きの私としては期待したいところだ。

本書は、「家族ペット」に注目しながら、家族社会学の観点から書かれている。家族とはどういうものなのか。ペットを家族とみなすかそうでないかに関わらず、家族というものを改めて考えさせられる１冊である。

山根　惇生
（人文学部社会学科３年）

**『野村の「眼」：
弱者の戦い』**

〔請求記号：783.7/No〕
著者：野村　克也
出版年：2008

戦後の日本野球界を引っ張り、現在も多大なる影響力を発揮する野村克也氏が、プロ野球監督としての経験を踏まえ、自身の考え方を語っている一冊である。

著者は南海、ヤクルト、阪神、楽天と四球団で監督として指揮を執ってきた。しかし、この全ての球団が就任当初は最下位の弱小球団である。このようなチームを著者は次々とリーグ上位へと押し上げていった。弱小チームを強くする方法を考え、強豪チームを倒すことを目標としてきた著者の思いがこの一冊に表わされている。

組織を変えるプロセスには、「適材適所」と「意識改革」が必要だと著者は考える。それを徹底させることが、監督の役割の一つである。著者は、選手の素質と個性を洗い直し、一番ふさわしい場所に配する適材適所と意識改革の方針で、埋もれていたかもしれない選手の才能を生かすことに成功し、チーム全体に好影響を与えた。他球団から解雇された選手をそれぞれ特性に合ったポジションに配置し、再び活躍させる手腕は、「野村再生工場」などと呼ばれる。

「先入観は罪、固定観念は悪」というのが著者の考え方である。優れた才能を持っていながら、その使い方を間違え、方向違いの努力をしている選手は少なくない。こういった選手一人一人に対し、先入観、固定観念を持つことなく指導していくことが「適材適所」の結果につながるのだと著者は考える。

そして、著者は選手達に「変わる勇気」の必要性を説く。せっかく他人の評価により、自分自身の特性が見出されたとしても、本人が変わろうとしなければ何の意味もない。プロ野球選手はプライドの高い選手が大半で、他人の意見を受け入れようとしない選手も多いが、「自己愛に基づいた自分の評価よりも、他人が下した評価の方が正しい」というのが著者の考えである。選手には他人の意見に対して謙虚に耳を傾け、素直に実行していく姿勢を求める。「変わる勇気」すなわち、選手達自身の「意識改革」が組織を変えるのに大きな意味があると著者は考えているのである。

長年、日本野球界で活躍し、今でも活躍を続ける野村克也氏。本書を読み、多くの人から尊敬され、人気を集める著者には、優秀な成績や結果を残すだけの説得力のある知識が備わっていると感じた。野球を通じ、組織論やリーダー論を語り、今まで気付くことなかった考えを語りかけてくれる。そんな一冊である。

○佳　作

浅野　有衣
（人文学部社会学科３年）

『小さい“つ”が消えた日』

〔請求記号：913.6/Lo〕
著者：ステファノ・フォン・ロー
出版年：2008

この本は、五十音村にすむ言葉の妖精たちの物語である。五十音村にすむ言葉の妖精たちは、一人ひとりとても個性豊か。一人ひとり性格も特徴も違うのである。この物語の主人公である小さい“つ”も、そんな仲間の一人である。彼はいつもまわりの人やもの、そして周囲で起きていることに気を配り、相手の立場で物事を考えている。ただ彼は口がきけない。自分では一言も話せないのである。ある夏の夜、事件が起きてしまう。いつものように文字たちが集まって宴会を開いていたときのことだ。文字のなかで誰が一番えらいかという話になった。次々とみんなが自分の自慢をしているなか、誰かが大きな声でこう叫んだ。「誰が一番えらいかはわからないけど、誰が一番えらくないかは知ってるぞ。それは小さい“つ”さ。だって彼は音を出さないからな。そんなの文字でもなんでもないさ。」みんなは大きな声で笑い、同意した後、それっきりそのことを忘れてしまった。そのことに深く傷ついた小さい“つ”はその夜、村を出て行ってしまう。小さい“つ”が村から姿を消した次の日、すべての印刷物や人の会話から小さい“つ”は完全に消えてしまったのである。会話が成り立たないことにより人間社会は大混乱に陥る。文字たちはこのままでは日本語が消えてしまうと考え、小さい“つ”へメッセージを出す。そこには小さい“つ”がどんなに大きな存在でいかに大切なものかが書かれていた。冒険に出ていた小さい“つ”も自分自身の存在意義について考えることができ、みんなの気持ちを知った彼は五十音村に帰り、無事日本語を守ることができたのである。

この物語から受け取るメッセージは様々であると思う。個性の尊重、他人と比べるのではなく自分自身の長所を認め、さらには他人を認める心の大切さ。この世の中に無くなっていいものなど何もないことなど。他にもたくさんのメッセージがこの本には詰まっていると思う。その中でも私が一番心に残った言葉は「我々はいつもそうだが、一度なくしてから、それがいかに大事だったかということに気づく。」というものである。私はこの言葉をずっと忘れないようにしたいと思った。この本を読むことで、私と同じように忘れてしまっていた大事なことに気づける人が多くいると思う。心に響いたり、心が温かくなる言葉がたくさん詰まっているこの本をぜひ読んでみてほしい。

越智　裕加里
（人文学部社会学科１年）

『最後のパレード』

〔請求記号：Lib/2009〕
著者：中村　克
出版年：2009

皆さんは日々の生活を送っていくなかで、最近、心温まる出来事を体験しただろうか。

本書では、ディズニーランドで実際に起こった、33 個の心温まる出来事を紹介している。そして、ディズニーランドという舞台を通して、“人を思いやることの本当の意味”を伝えようとしている。

本書は、一つ一つが短いストーリーとなっており、伝えたい内容を難しい言葉ではなく、ストレートな言葉によって表現されている。そのため、非常に読みやすく、ストーリーから生まれる感情がストレートに伝わってくるといえる。また、実際にディズニーランドを訪れた人からのお礼の手紙を、そのまま載せてあるストーリーもあるため、非常にリアリティに富んだ作品となっている。

では、本書が伝えようとする“人を思いやることの本当の意味”とは、何であろうか。本書で紹介されているストーリーから、その答えは導き出せると、私は考える。そこで、本書の 33 個の心温まるストーリーを代表して、特にその答えを最も示している“大きな白い温かい手”というストーリーから考察していきたいと思う。

このストーリーは、２度の脳梗塞によって重い障害が残った夫と妻がディズニーランドを訪れたときのことである。広場のすみに、妻は夫が乗っている車いすを止め、そばに付き添っていると、ドナルドがなぜか子供たちの群れをかき分け、この夫婦に近づいてきた。そして、ドナルドは車いすに乗った夫の前にくると、大きく一礼をして夫の背中を２度も３度もなでた。今度は、その大きな白い温かい手で妻の腕をさすり、両手で包み込んだ。すると、周りにも温かさが広がったのだろう。見ていた人たちから拍手が起こり、感動のあまり夫は涙を流していた。「ありがとう」というのが精一杯のこの夫婦に、ドナルドはうんうんとうなずいて、もう一度夫の背中をなでてから、子供たちの方に駆けて行った。

このストーリーから、“人を思いやることの本当の意味”とは、「相手の立場に立って物事を考える」ことだと捉えることができる。そして、たとえ言葉がなくても思いやりの気持ちは表現できることが強く読み取れる。

人を思いやること、ささいな感動を大切にすること、これらは、簡単そうで案外難しいことである。なぜなら、これらを実行するには、自分の心にゆとりがないとできないからだ。このことは、私が本書を読んで教わったことである。

しかし、毎日時間に追われ、心身共に疲れきっている人が、今の現代社会には多いことだろう。そんなとき、本書を片手にちょっとした思いやりにふれてみてはいかがだろうか。その小さな思いやりにふれることで、ふと忘れかけていた大切なことに気づかせてくれるに違いない。そして、明日からの人生をさらに輝かせるきっかけとなるだろう。

味村　佳南
（人文学部社会学科４年）

『水木サンの幸福論：妖怪漫画家の回想』

〔請求記号: 726.101/Mi〕
著者：水木　しげる
出版年： 2004

人は誰しも幸福になりたいと願っている。しかし、幸福になるためにどうしたらよいのか分からず、不透明な未来に不安を抱えているものではないだろうか。

本書では「幸福とは何だろう？」と著者が子供時代から自問自答を繰り返し、何十年もの間世界中の幸福な人と不幸な人を観察から導き出した幸福の７ヵ条を紹介している。

その法則は自分の好きなことに熱中しろ、けれど結果を求めるなという内容が基本である。これを聞いてあなたは、それはそうだろう、人間好きなことをして生き、さらにその結果が出て生活できるなんてどれほど幸せなことであろうか、と思ったかもしれない。幼少より好きだった絵を生かした漫画でこれまで生活してきた著者はまさに理想である。

実は本書のタイトルである「水木サンの幸福論」は実はたったの 16 ページしか掲載されていないのだが、著者の半生を知った上で幸福論を聞いて欲しいのだ。

著者は 1922 年大阪市に３人兄弟の次男坊として生を受けた。幼少時代よりマイペースで小学校入学を１年遅らせたほど。学校を卒業して就職するもクビ、再就職するもまたクビ。そんな息子を見かねて父親が「もう職探しはやめて絵の勉強を」と、絵の学校を受験することになる。定員 50 人に対して受験者は 51 人。私の感覚でもまあ大丈夫だろうと高を括ってしまうものだが、著者はまさかの不合格者になる。就職もダメ、受験もダメ。

そうしているうちに太平洋戦争に突入する。21 歳の時には召集され前線の南の島ラウバルに送られた。しかし、戦地でマラリアに感染して苦しみ、戦闘により左腕を失ってしまう。生きて日本に帰ることができたとはいえ、かなりの痛手だったはずだ。

しかし、著者は「利き腕があるじゃないか」と至ってポジティブで、片腕が無い事について不満を漏らすことは無かったという。その後、本格的に漫画家を目指すものの、鳴かず飛ばずの日々。漫画で食べられるようになった今日まで成功どころか挫折の繰り返しだった。

そんな苦労を重ねてきた著者だからこそ「水木サンの幸福論」は重みのある言葉なのだ。幸福論の６条目に「怠け者になりなさい」という法則があるのだが、著者が怠け者か考えると、どうにもそうではない気がする。このあたりは自身の幸福論でありながら守りきれていない部分もありそうだが、前へ前へとあくせくした現代人にとって実は１番必要なことかもしれない。

他人にどう思われようと好きなことを続けること、その結果を求めないこと、時に怠けること、それがどれ程大変で幸せか、本書は押し付けるわけでなく、気付かせてくれる。幸福とは難しく考えずとも、本当はもっと近しい存在なのかもしれない。

注）受賞者の学年は受賞時のものです。

※各作品への講評および過去作品は、松山大学図書館ホームページに掲載しています。
（http://www.matsuyama-u.ac.jp/lib/syohyo/syohyo01.htm）

第 11 回松山大学図書館書評賞応募要項

１．応募資格
本学学生（松山大学　及び　松山短期大学学生）、ただし大学院生は除く。

２．書評対象図書
松山大学図書館所蔵の図書であること。

３．応募要領
- 図書１冊につき 800 字以上 1,200 字以内とする。
- 原則として、ワープロ原稿に限る。マイクロソフト社の Word を使用すること。
- 応募件数は、２篇以上も可（但し受賞は一人１篇とする）。
- 応募作品は未発表のものに限る。
- 応募後の書評の使用権は、松山大学に帰属する。

４．応募期間・提出先
2011 年８月 22 日㈪～ 2011 年 10 月３日㈪　午後５時（時間厳守）

５．応募方法
学内ポータルの図書館及び図書館ホームページの「書評賞応募用紙」（所定の様式）（Word）を使用し、E-mail に添付し送付する。
⑴　メールの件名に「書評賞応募　学籍番号　氏名」を記入する。
⑵　宛先： mu-libs@matsuyama-u.jp

６．その他
入選発表、表彰式等の詳細については松山大学ホームページの図書館ページに掲載します。

C3からのおすすめ本紹介コーナー

『たった１分で人生が変わる片づけの習慣』
【請求記号：597.9／Ko】

美馬さんオススメ☆

掃除してもすぐ部屋を汚してしまう人、掃除のやり方がわからない人、もっとスッキリした気分になりたい人等々、いろいろな疑問や不安がある人にオススメしたい一冊です。片づけのコツや汚さない方法など、今すぐ片づけしたくなります。少しでも興味を持った人は、ぜひ一度読んでみてください。

『25歳までにしなければならない59のこと』
【請求記号：Lib／2009】

村上さんオススメ☆

この本には、有意義な大学生活のためのヒントがたくさん載っています。何を、何のために、どのように。悩める大学生の方には、必見です。

『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』
【請求記号：913.6／Iw】

和田さんオススメ☆

野球部のマネジャーになった「みなみ」は、マネジャーの仕事をマネジメントと誤解してドラッカーの本を買ったところから物語は始まります。一見、野球部のマネジャーと経営者は違うように見えて実は重なる点がいっぱいありました。「顧客とは誰か」を考えながら組織改革をし、部員が変わっていく姿に感動をしました。皆さんもこの本を読んでいただき、大学、サークル、バイト、職場…様々な場所で自分の目標は何か、顧客とは誰か、を考えてみませんか。

C３とは？【『C３』の由来… Chance(機会)・ Challenge(挑戦)・ Change(変化)】
『C３』のスタッフは、図書館情報検索ガイダンスや図書館見学ツアーのサポート、また、学生の図書館利用促進のため各種イベントを企画、立案し、実行しています。

C3 選書コーナー
2010年度貸出ランキング
（2011年２月23日現在）

第１位

書名：99のなみだ
著者：リンダブックス編集部
請求記号：913.68/Ri

書名：レイクサイド
著者：東野圭吾
請求記号：913.6/Hi

第２位

書名：泣ける２ちゃんねる
著者：泣ける２ちゃんねる管理人
請求記号：Lib/2009

書名：桐島、部活やめるってよ
著者：朝井リョウ
請求記号：913.6/As

書名：少女
著者：湊かなえ
請求記号：913.6/Mi

書名：眠りの森
著者：東野圭吾
請求記号：913.6/Hi

編集後記

日を追うごとに暖かさが増し、出会いの季節となりました。人、環境、物、感情、知識等、さまざまなモノとの出会いがあふれているなかで、自分にとって必要なものを選択し、取り込んでいくことが求められます。

例えば、受動的な学習スタイルが主だった高校時代とは異なり、大学生に必要とされるのは自ら積極的に学習する姿勢です。図書館の４階には各教員がシラバスに掲載している参考書類等の「指定図書コーナー」を設けています。履修科目の選択時や、授業の内容で分からない時など、何かヒントが得られます。

ぜひ図書館を覗いてみてください。その他にも、図書館にはさまざまな用途に応じて利用できるスポットが満載です。

松山大学図書館報　No.47　2011年４月１日発行
編集・発行　松山大学図書館
〒790-8578　松山市文京町4番地2　TEL(089)925-7111㈹
ホームページアドレス　http://www.matsuyama-u.ac.jp
E-mail：mu-libs@matsuyama-u.jp